

Ⅲ 産 業

1 産業

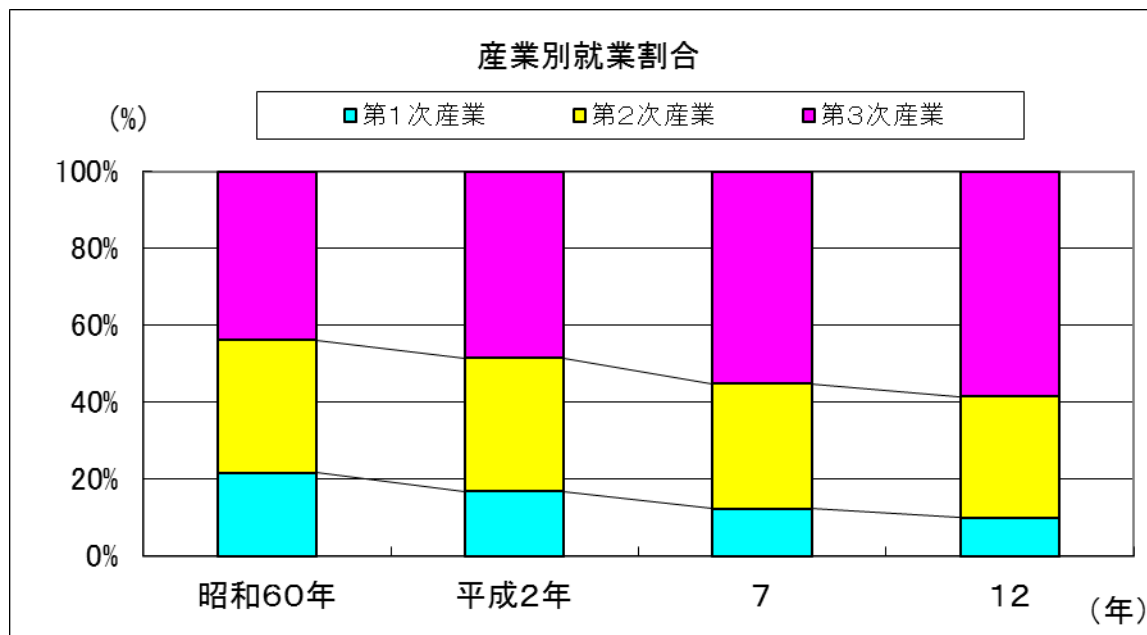
(1) 産業別就業者数

下野市の産業別就業者数の推移をみると、平成7年から平成22年までに、第1次産業は1,636人減少、第2次産業は1,573人減少、第3次産業は2,443人増加している。

産業別就業者数の推移

単位：人

区 分	平成7年	12	17	22
第1次産業	3,517	2,971	2,553	1,881
第2次産業	9,376	9,302	8,340	7,803
第3次産業	15,947	17,387	18,526	18,390



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

解 説

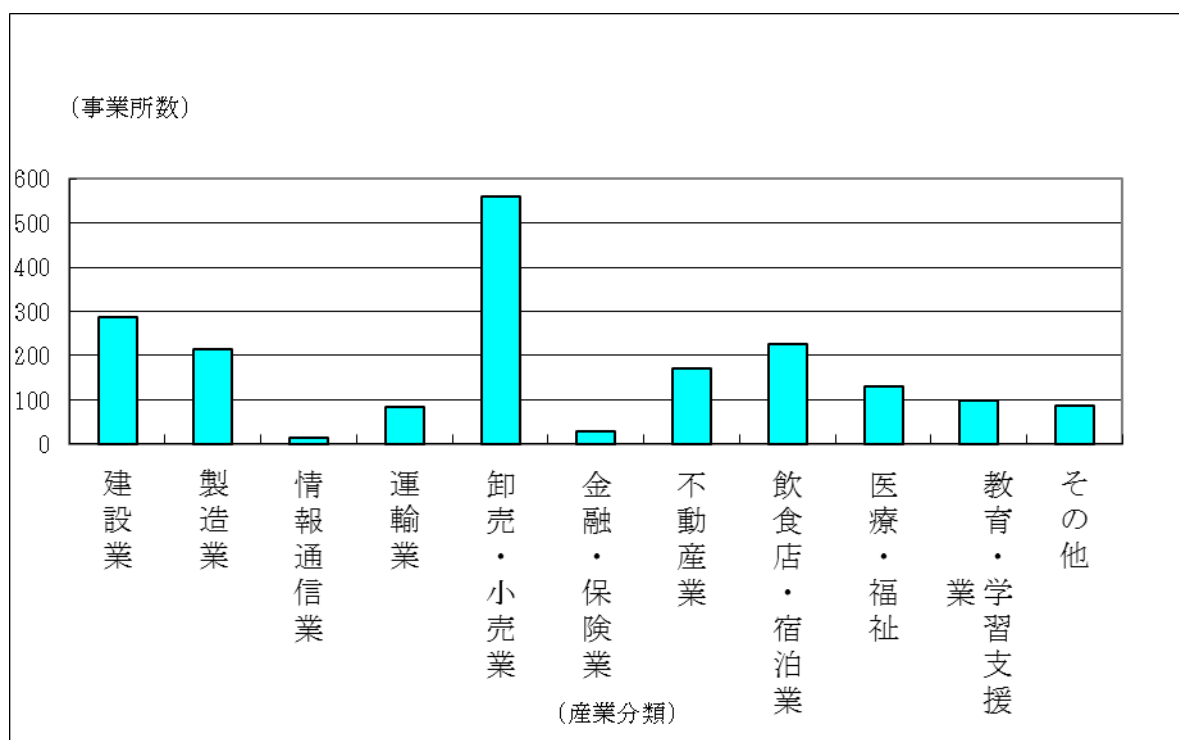
本標準産業分類は、統計調査の結果を産業別に表示する場合の統計基準として、事業所において社会的な分類として行われる財貨及びサービスの生産又は提供に係るすべての経済活動を分類したもので、統計の正確性と客観性を保持し、統計の相互比較性と利用の向上を図ることを目的として、昭和24年10月に制定されています。その具体的な内容は、事業所において行われる農業、建設業、製造業、卸売業、小売業、金融業、医療、福祉、教育、公務などすべての経済活動を、大分類、中分類、小分類及び細分類の4段階に分類したものです。

(2) 産業（大分類）別事業所数

平成21年の下野市の産業（大分類）別事業所数を見ると、卸売・小売業（561）が最も多く、2番目に建設業（286）、3番目に飲食店・宿泊業となっている。

産業（大分類）別事業所数

	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援業	その他
下野市	286	213	14	83	561	28	172	227	129	98	87



資料：平成21年経済センサス基礎調査
(7月1日現在)

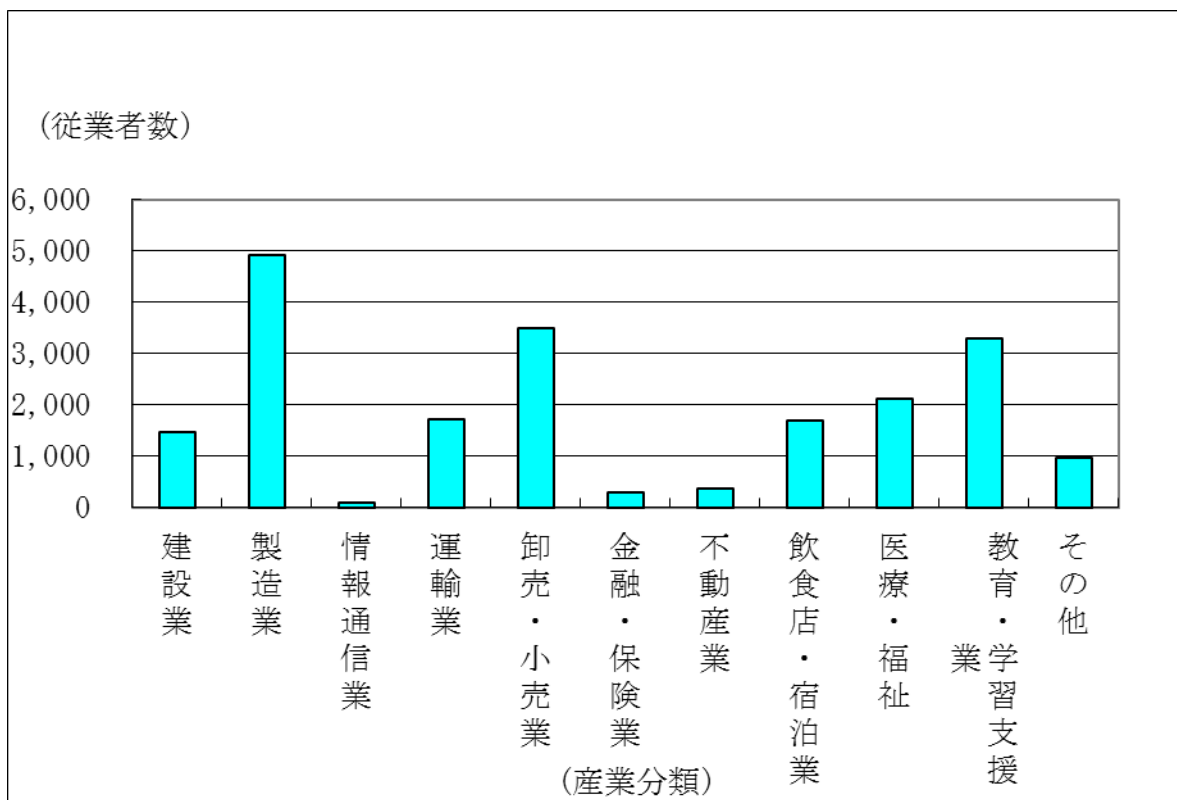
(3) 産業（大分類）別従業員数

平成21年の下野市の産業（大分類）別従業員数を見ると、製造業（4,923人）が最も多く、2番目に卸売・小売業（3,496人）、3番目に教育・学習支援業（3,290人）、4番目に医療・福祉（2,110人）となっている。

産業（大分類）別従業員数

単位：人

	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援業	その他
下野市	1,466	4,923	84	1,730	3,496	290	362	1,685	2,110	3,290	978



資料：平成21年経済センサス基礎調査
(7月1日現在)

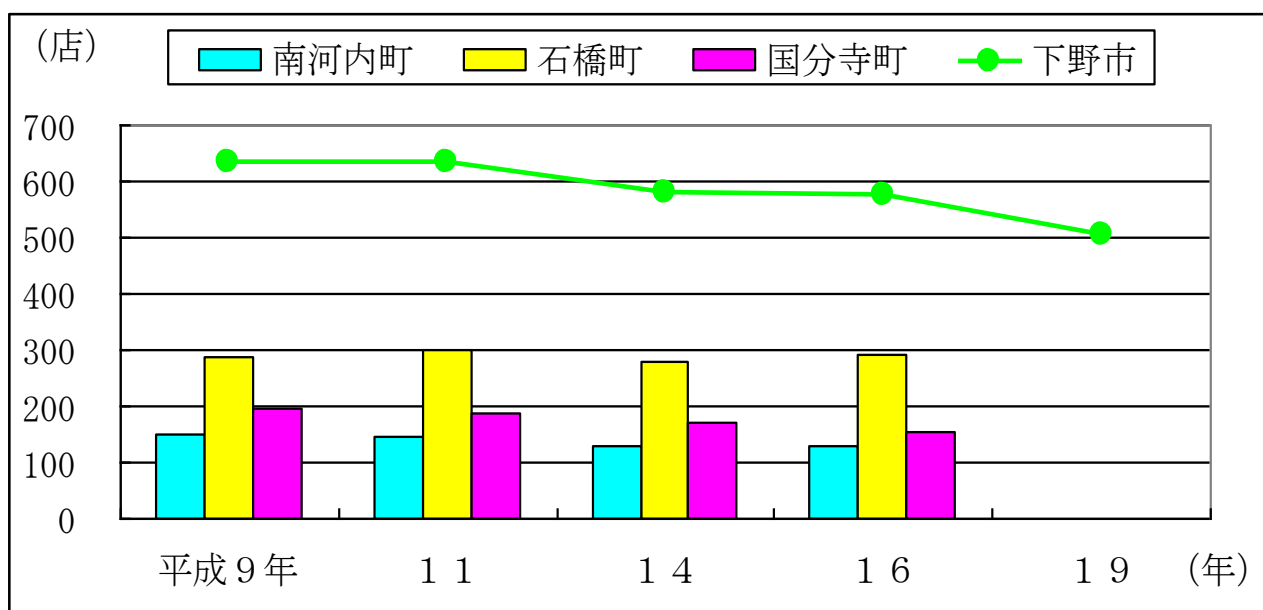
2 商業

(1) 商店数

下野市の商店数の推移をみると、平成9年（634）から平成19年（510）までに124減少している。

商店数の推移

旧町別	平成9年	11	14	16	19
南河内町	151	145	129	129	—
石橋町	288	301	279	291	—
国分寺町	195	188	170	155	—
下野市	634	634	578	575	510



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：商業統計調査（各年6月1日）

参 考

平成19年商業統計調査の商店数

宇都宮市	5,901	日光市	1,304	那須塩原市	1,306
足利市	2,222	小山市	1,810	さくら市	439
栃木市	1,211	真岡市	783	那須烏山市	386
佐野市	1,957	大田原市	898		
鹿沼市	1,263	矢板市	420		

6月1日現在

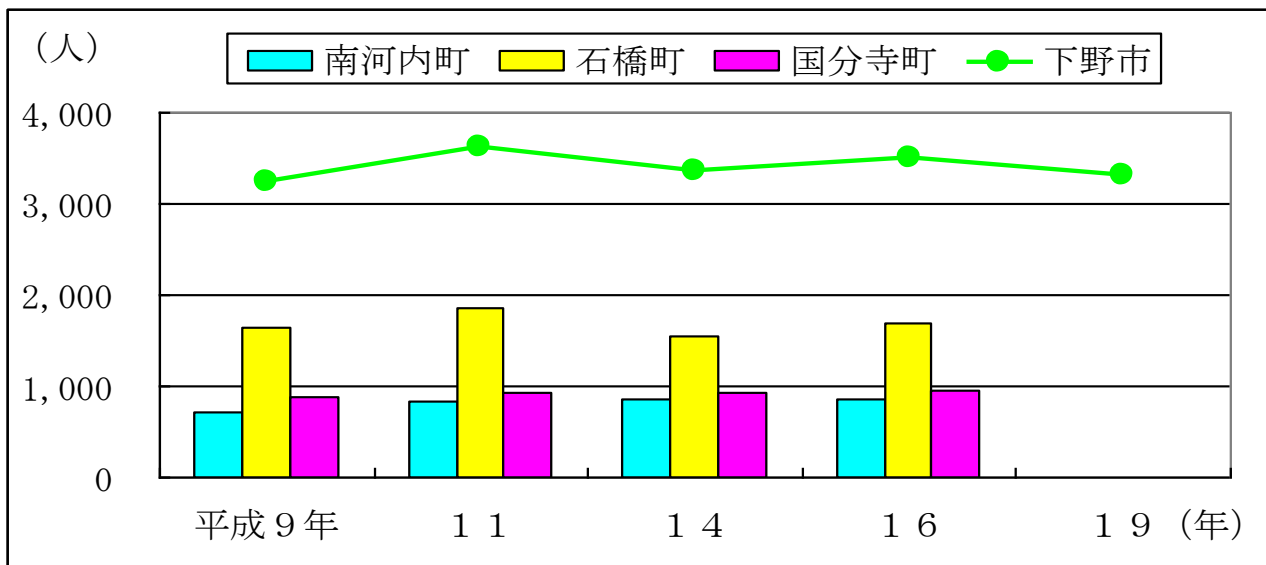
(2) 従業者数

下野市の商業従事者数の推移をみると、平成9年（3,247人）から平成19年（3,348人）までに101人増加している。

商業従業者数の推移

単位：人

旧町別	平成9年	11	14	16	19
南河内町	717	842	863	857	—
石橋町	1,649	1,846	1,547	1,685	—
国分寺町	881	939	940	952	—
下野市	3,247	3,627	3,350	3,494	3,348



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：商業統計調査（各年6月1日）

参考

平成19年商業統計調査の商業従事者数

単位：人

宇都宮市	50,129	日光市	6,945	那須塩原市	8,654
足利市	13,143	小山市	13,605	さくら市	2,897
栃木市	7,189	真岡市	5,345	那須烏山市	1,770
佐野市	11,159	大田原市	5,781		
鹿沼市	7,547	矢板市	2,394		

6月1日現在

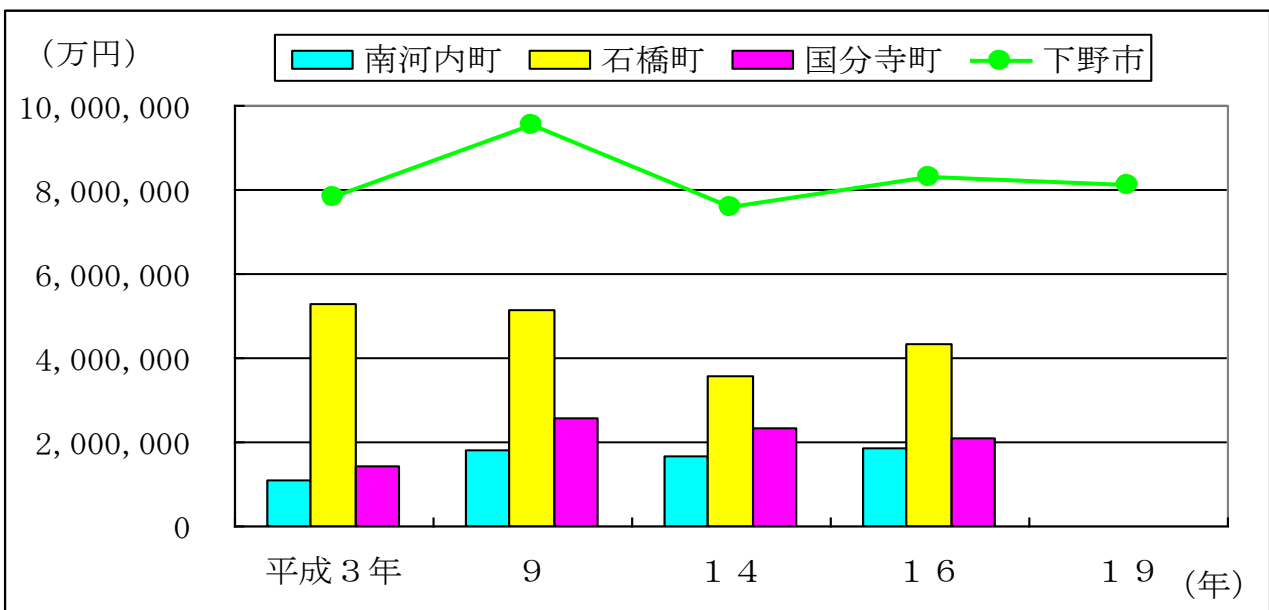
(3) 年間商品販売額

下野市の商店の年間商品販売額の推移をみると、平成9年(9,532,311万円)から平成19年(8,103,981万円)までに1,428,330万円減少している。

商店の年間商品販売額の推移

単位：万円

旧町別	平成9年	11	14	16	19
南河内町	1,813,201	1,658,276	1,651,579	1,862,820	—
石橋町	5,163,766	5,287,075	3,583,253	4,350,057	—
国分寺町	2,555,344	2,160,242	2,324,199	2,092,870	—
下野市	9,532,311	9,105,593	7,559,031	8,305,747	8,103,981



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：商業統計調査（各年6月1日）

参考

平成19年商業統計調査の年間商品販売額

単位：万円

宇都宮市	289,932,344	日光市	12,063,082	那須塩原市	20,931,756
足利市	34,516,387	小山市	52,950,724	さくら市	6,379,026
栃木市	18,165,140	真岡市	11,765,060	那須烏山市	2,661,898
佐野市	28,355,257	大田原市	12,925,127		
鹿沼市	20,414,965	矢板市	4,865,349		

6月1日現在

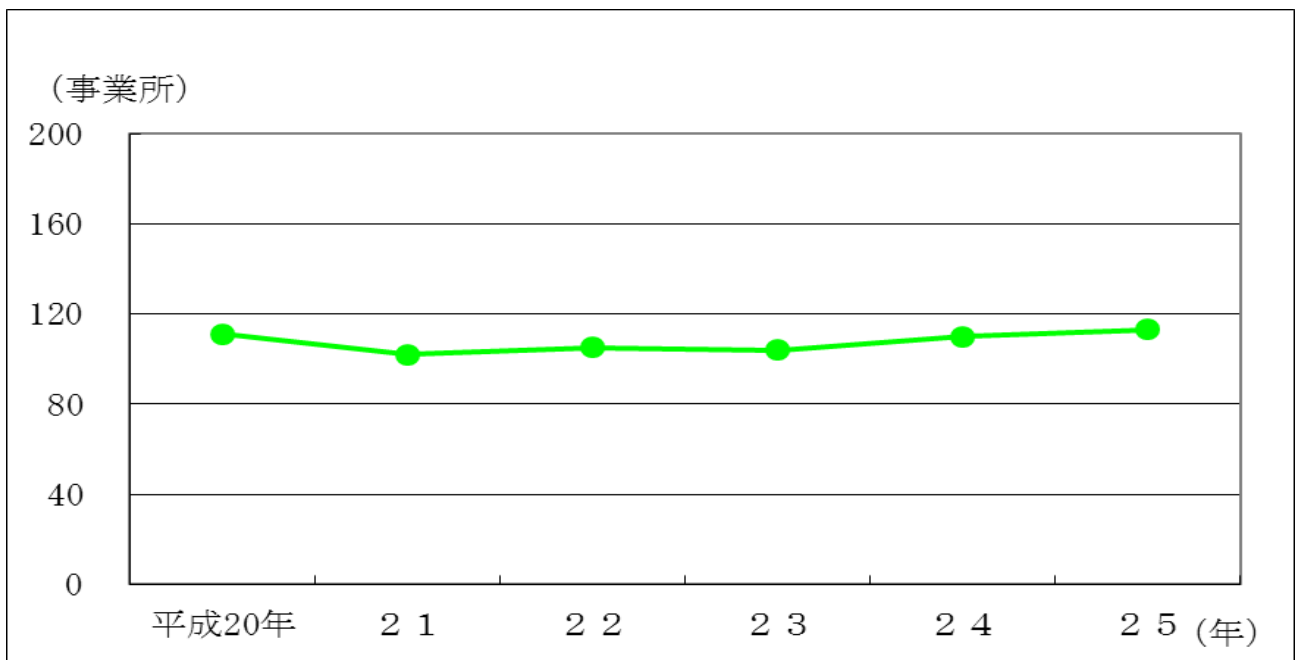
3 工業

(1) 事業所数

下野市の生産活動を行う事業所数の推移をみると、平成20年(111)から平成25年(113)までに2増加している。

生産活動を行う事業所数の推移

年	平成20年	21	22	23	24	25
下野市	111	102	105	104	110	113



資料：工業統計（各年12月31日現在）
（従業者4人以上の事業所）

参 考

平成25年工業統計調査の事業所数

宇都宮市	537	日光市	209	那須塩原市	235
足利市	612	小山市	266	さくら市	108
栃木市	375	真岡市	196	那須烏山市	120
佐野市	422	大田原市	158		
鹿沼市	406	矢板市	63		

12月31日現在

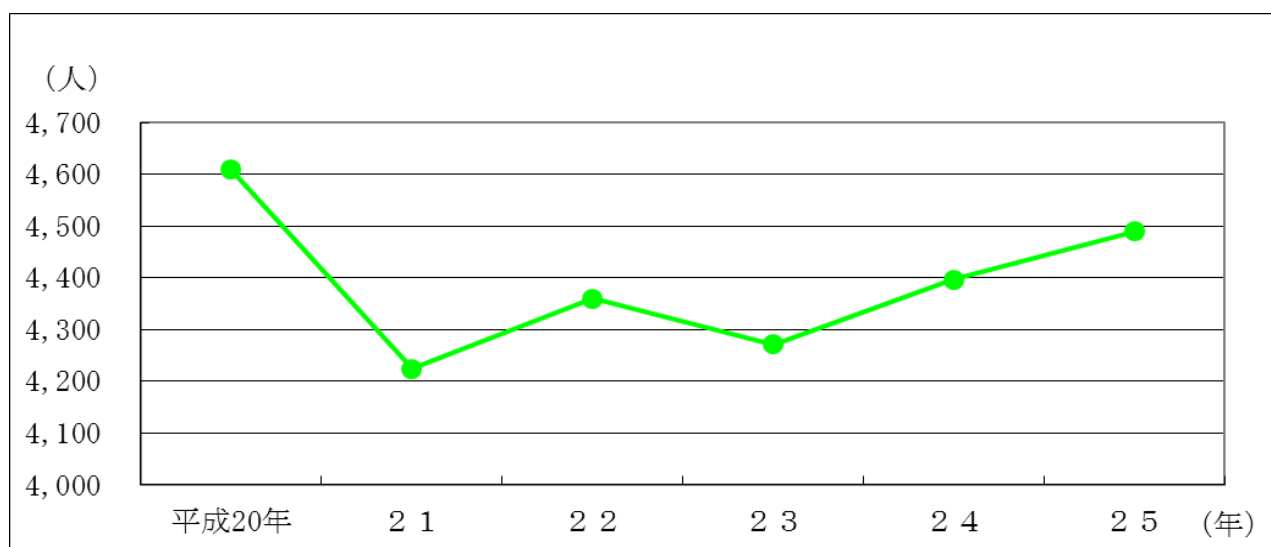
(2) 従業者数

下野市の生産活動を行う事業所の従業者の推移をみると、平成20年(4,609人)から平成25年(4,490人)までに119人減少している。

生産活動を行う事業所の従業者数の推移

単位：人

年	平成20年	21	22	23	24	25
下野市	4,609	4,224	4,360	4,271	4,397	4,490



資料：工業統計（各年12月31日現在）
（従業者4人以上の事業所）

参 考

平成25年工業統計調査の事業所の従業者数

単位：人

宇都宮市	29,852	日光市	7,253	那須塩原市	10,908
足利市	15,388	小山市	16,239	さくら市	4,686
栃木市	15,854	真岡市	13,175	那須烏山市	3,150
佐野市	13,801	大田原市	11,092		
鹿沼市	13,275	矢板市	3,183		

12月31日現在

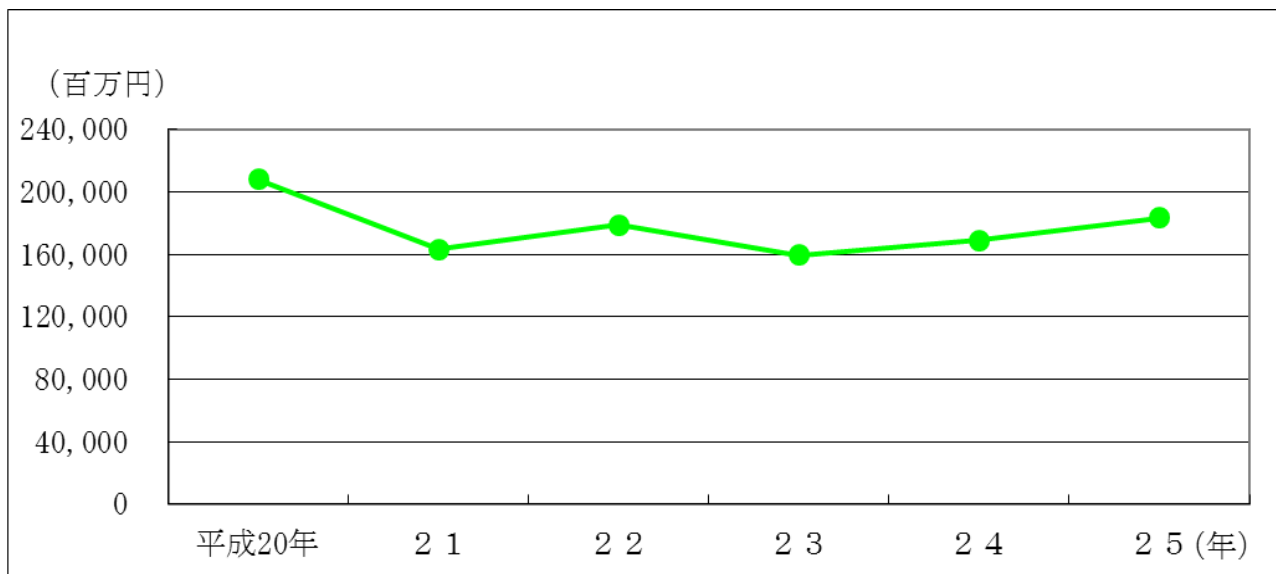
(3) 製造品出荷額等

下野市の製造品出荷額の推移をみると、平成20年(207,873百万円)から平成25年(183,338百万円)までに24,535百万円減少している。

製造品出荷額の推移

単位：百万円

年	平成20年	21	22	23	24	25
下野市	207,873	163,320	178,889	163,320	169,133	183,338



資料：工業統計（各年12月31日現在）
（従業者4人以上の事業所）

参 考

平成25年工業統計調査の製造品出荷額

単位：万円

宇都宮市	181,026,248	日光市	32,199,622	那須塩原市	35,689,225
足利市	33,104,918	小山市	72,962,236	さくら市	16,482,174
栃木市	81,588,100	真岡市	55,380,198	那須烏山市	4,841,936
佐野市	34,218,876	大田原市	63,364,711		
鹿沼市	38,209,609	矢板市	12,145,827		

12月31日現在

4 農業

(1) 農家数

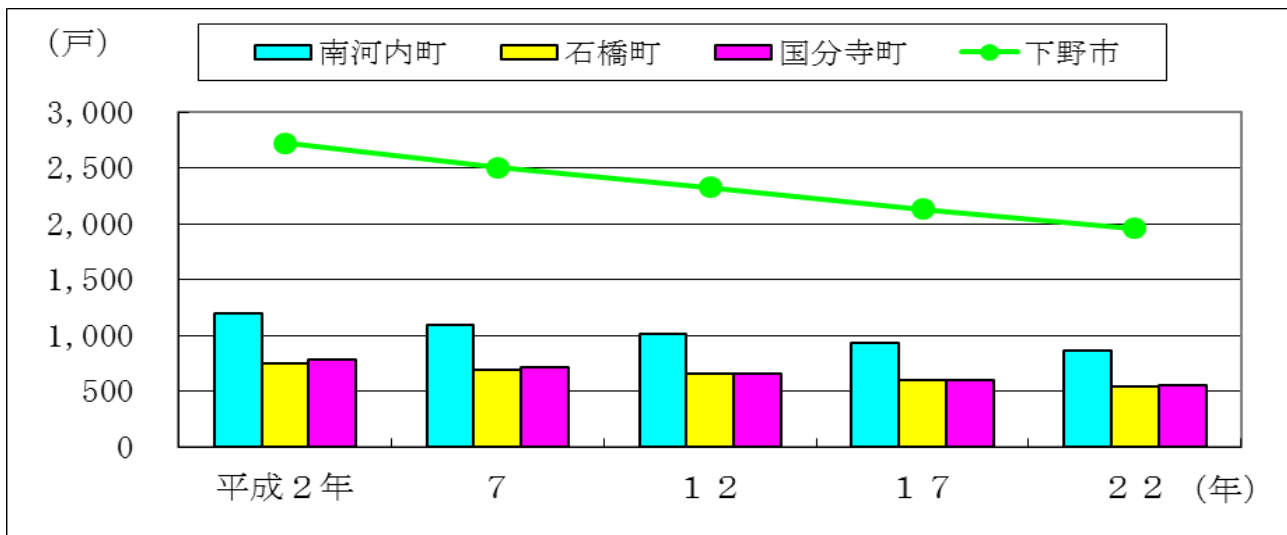
下野市の農家数の推移をみると、平成2年(2,725戸)から平成22年(1,961戸)までに764戸減少している。

旧町別にみると、平成2年から平成22年にかけて南河内町では332戸減少、石橋町では207戸減少、国分寺町では225戸減少している。

農家数の推移

単位：戸

旧町別	平成2年	7	12	17	22
南河内町	1,198	1,099	1,013	933	866
石橋町	744	690	660	604	537
国分寺町	783	719	657	596	558
下野市	2,725	2,508	2,330	2,133	1,961



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：農林業センサス（各年2月1日現在）

参考

平成22年農林業センサスの農家数

単位：戸

宇都宮市	6,128	日光市	2,644	那須塩原市	3,106
足利市	2,542	小山市	3,374	さくら市	2,082
栃木市	2,096	真岡市	4,438	那須烏山市	2,308
佐野市	3,547	大田原市	4,526		
鹿沼市	3,828	矢板市	1,318		

2月1日現在

(2) 経営耕地面積

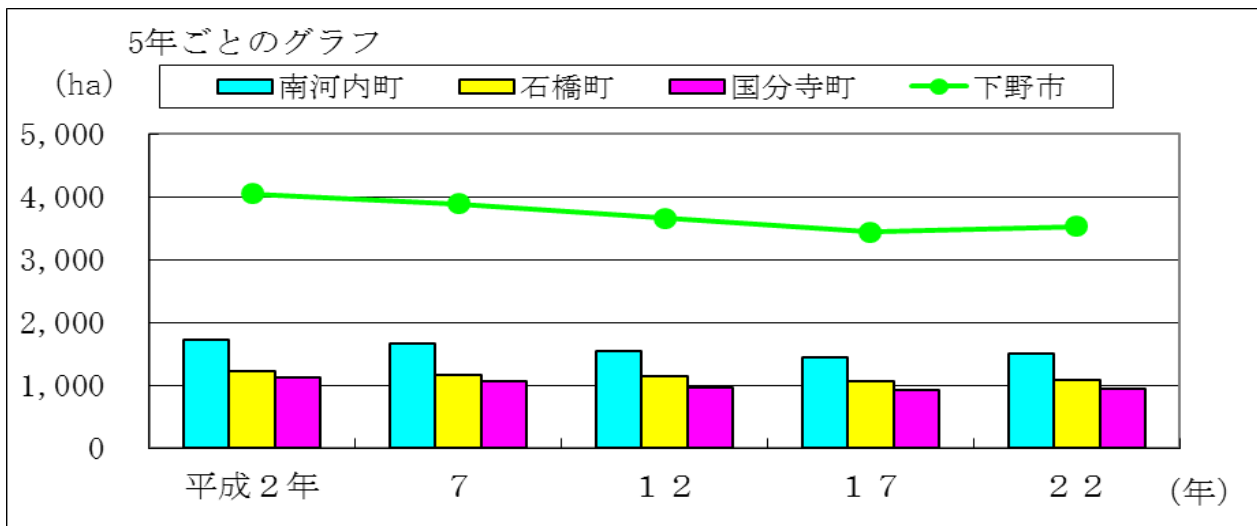
下野市の経営耕地面積（販売農家）の推移をみると、平成2年（4,050ha）から平成22年（3,523ha）までに527ha減少している。

旧町別にみると、平成2年から平成22年にかけて南河内町では221ha減少、石橋町では124ha減少、国分寺町では182ha減少している。

経営耕地面積（販売農家）の推移

単位：ha

旧町別	平成2年	7	12	17	22
南河内町	1,716	1,668	1,549	1,443	1,495
石橋町	1,213	1,166	1,136	1,061	1,089
国分寺町	1,121	1,051	966	927	939
下野市	4,050	3,885	3,651	3,431	3,523



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：農林業センサス（各年2月1日現在）

参 考

平成22農林業センサスの経営耕地面積

単位：ha

宇都宮市	10,469	日光市	4,069	那須塩原市	8,467
足利市	1,672	小山市	4,590	さくら市	4,698
栃木市	2,219	真岡市	7,174	那須烏山市	2,750
佐野市	2,445	大田原市	10,187		
鹿沼市	4,213	矢板市	2,640		

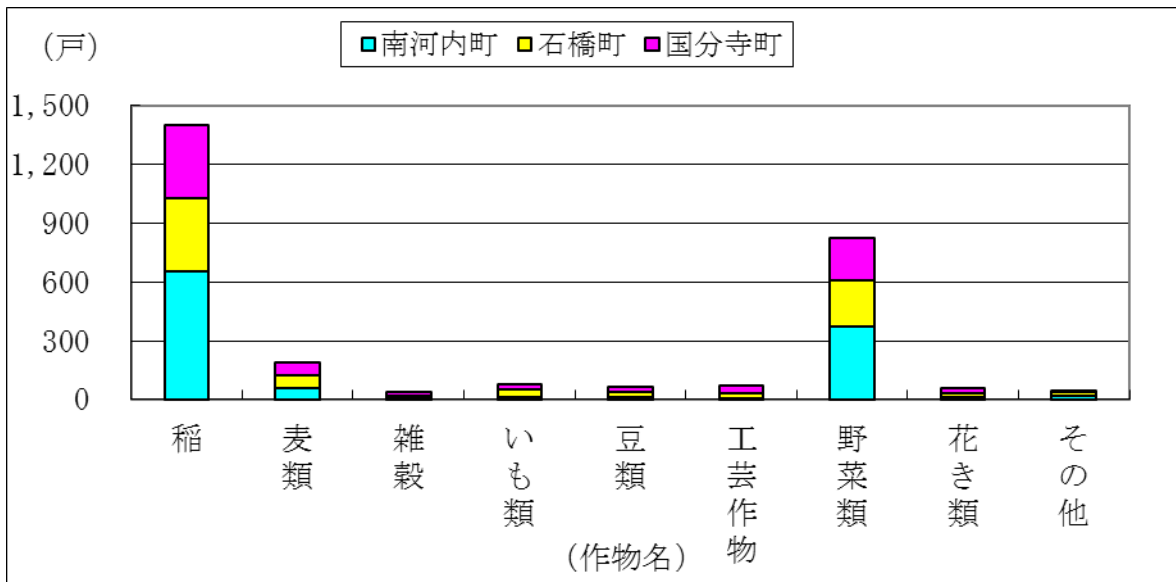
2月1日現在

(3) 販売目的で作付けした作物

下野市の販売目的で作付け（栽培）した作物の類別経営体数をみると、稲が 1,400 で 1 番多く、2 番目に野菜類の 824、3 番目に麦類の 187、4 番目にいも類の 80 となっている。旧町別にみると、南河内町では稲、野菜類、麦類、いも類、石橋町では稲、野菜類、麦類、国分寺町では稲、野菜類、麦類、工芸作物の順とそれぞれなっている。

販売目的で作付け（栽培）した作物の類別経営体数

旧町別	稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸作物	野菜類	花き類	その他
南河内町	656	58	7	15	14	8	376	12	20
石橋町	370	69	13	37	25	25	231	23	19
国分寺町	374	60	18	28	24	36	217	23	7
下野市	1,400	187	38	80	63	69	824	58	46



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：農林業センサス（平成22年）

参 考

平成22年農林業センサスの販売目的で作付け（栽培）した作物の類別経営体数

	稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸作物	野菜類	花き類	その他
宇都宮市	4,347	490	120	253	344	16	1,195	155	81
栃木市	1,297	245	48	37	102	2	248	10	1
小山市	1,929	399	59	48	112	23	660	59	28
上三川町	1,162	106	13	27	16	24	547	11	6
壬生町	952	154	69	85	148	23	334	28	30

2月1日現在

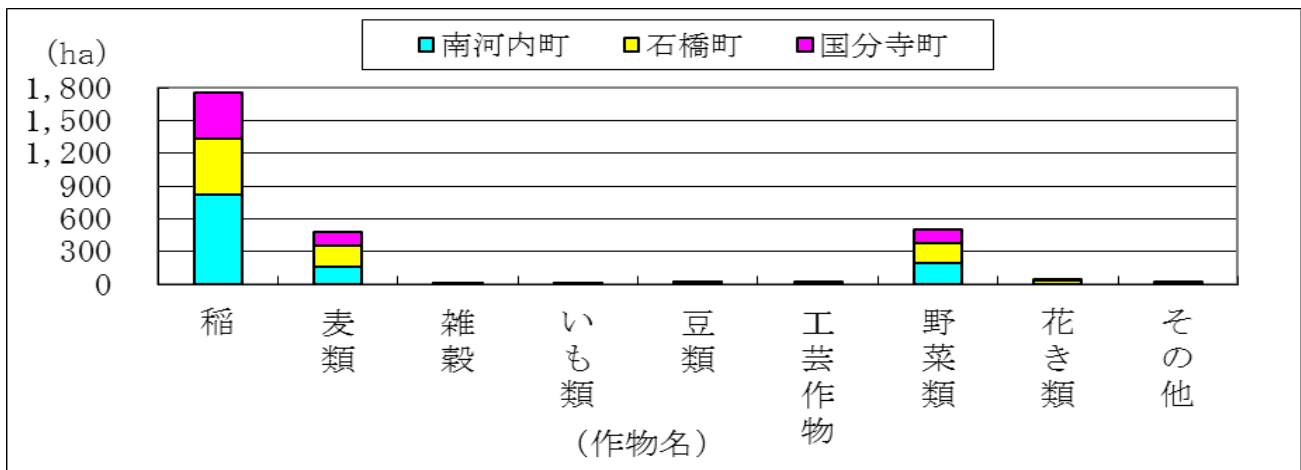
下野市の販売目的で作付け（栽培）した作物の類別作付面積は稲が 1,755ha で 1 番多く、2 番目に野菜類の 504ha、3 番目に麦類の 480ha、4 番目に花き類の 47ha となっている。

旧町別にみると、南河内町では稲、野菜類、麦類、豆類、石橋町では稲、麦類、野菜類、花き類、国分寺町では稲、麦類、野菜類、工芸作物の順にそれぞれなっている。

販売目的で作付け（栽培）した作物の類別作付け面積

単位：ha

旧町別	稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸作物	野菜類	花き類	その他
南河内町	825	159	2	1	12	3	201	5	4
石橋町	507	191	3	1	3	8	180	36	10
国分寺町	423	130	8	1	5	20	123	6	4
下野市	1,755	480	13	3	20	31	504	47	18



※ 3 町の合計を下野市として作成

資料：農林業センサス（平成 22 年）

※ 単位に満たないものについては空欄となっている。

参 考

平成 22 年農林業センサスの販売目的で作付け（栽培）した作物の作付面積

単位：ha

	稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸作物	野菜類	花き類	その他
宇都宮市	6,278	985	62	11	314	4	442	111	25
栃木市	1,300	472	9	1	80		76	4	
小山市	1,076	778	115	8	180	9	518	35	18
上三川町	1,076	109	1	1	1	8	227	3	4
壬生町	1,086	238	24	4	38	8	157	12	17

2月1日現在

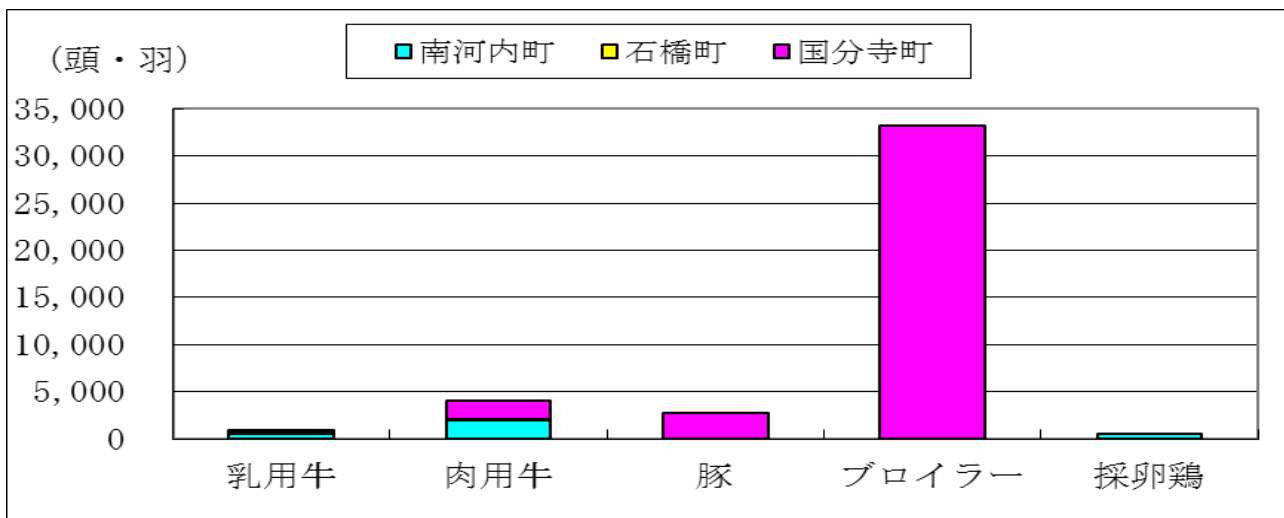
(4) 家畜飼養頭羽数

下野市の家畜飼養頭羽数は肉用牛4,087頭、豚2,790頭、乳用牛906頭、ブロイラー33,200羽、採卵鶏500羽となる。

家畜飼養頭羽数

単位：頭・羽

旧町別	乳用牛	肉用牛	豚	ブロイラー	採卵鶏
南河内町	538	1,985	0	0	500
石橋町	307	153	0	0	0
国分寺町	61	1,949	2,790	33,200	0
下野市	906	4,087	2,790	33,200	500



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：農林業センサス（平成22年）

参考

平成22年農林業センサスの家畜飼養頭羽数

単位：頭・羽

宇都宮市	10,368	日光市	10,983	那須塩原市	24,501
足利市	2,793	小山市	8,428	さくら市	9,817
栃木市	3,646	真岡市	16,289	那須烏山市	11,614
佐野市	958	大田原市	16,005		
鹿沼市	8,640	矢板市	1,821		

2月1日現在

※牛・豚はそれぞれ1頭とし、鶏については100羽を牛・豚1頭分として算出（ブロイラー羽数は除く）

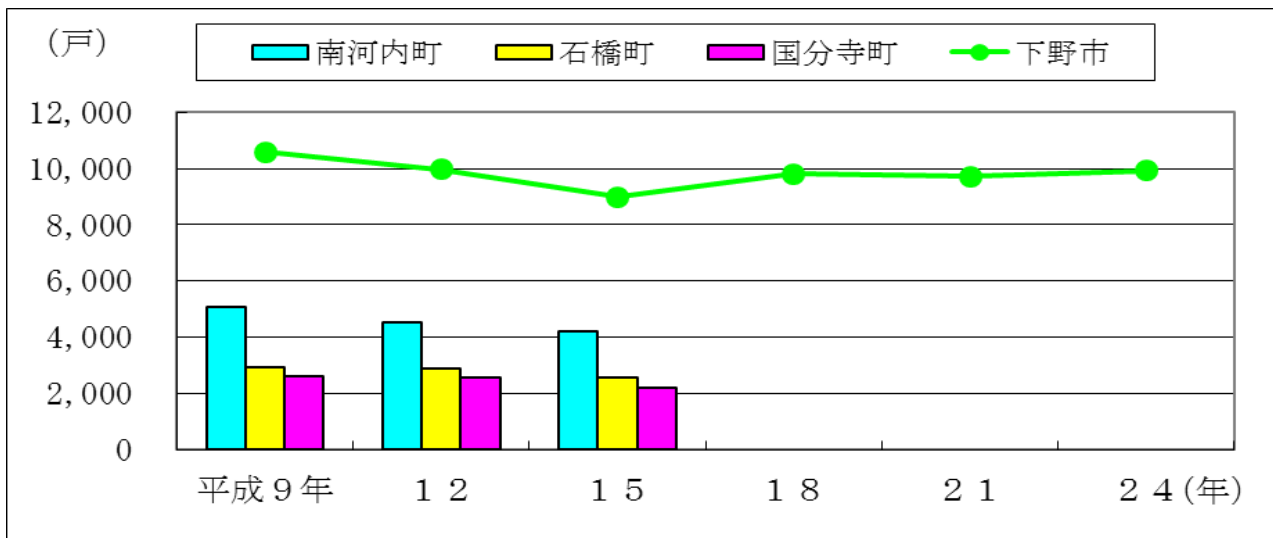
(5) 水稻収穫量

下野市の水稻収穫量の推移をみると、平成9年(10,580 t)から平成24年(9,930 t)までに650 t減少している。

水稻収穫量

単位：t

旧町別	平成9年	12	15	18	21	24
南河内町	5,070	4,530	4,210	-	-	-
石橋町	2,910	2,890	2,570	-	-	-
国分寺町	2,600	2,560	2,210	-	-	-
下野市	10,580	9,980	8,990	9,820	9,730	9,930



【参考】水稻作付面積

単位：ha

旧町別	平成9年	12	15	18	21	24
南河内町	960	880	850	-	-	-
石橋町	575	525	520	-	-	-
国分寺町	512	467	448	-	-	-
下野市	2,047	1,872	1,818	1,880	1,850	1,850

資料：栃木県統計年鑑

参 考

平成24年水稻収穫量

単位：t

下野市	9,930	佐野市	10,300	真岡市	24,300	那須烏山市	8,580
宇都宮市	37,100	鹿沼市	11,400	大田原市	39,700	那須塩原市	26,600
足利市	7,220	日光市	13,400	矢板市	10,000		
栃木市	21,700	小山市	19,500	さくら市	19,400		

5 林業

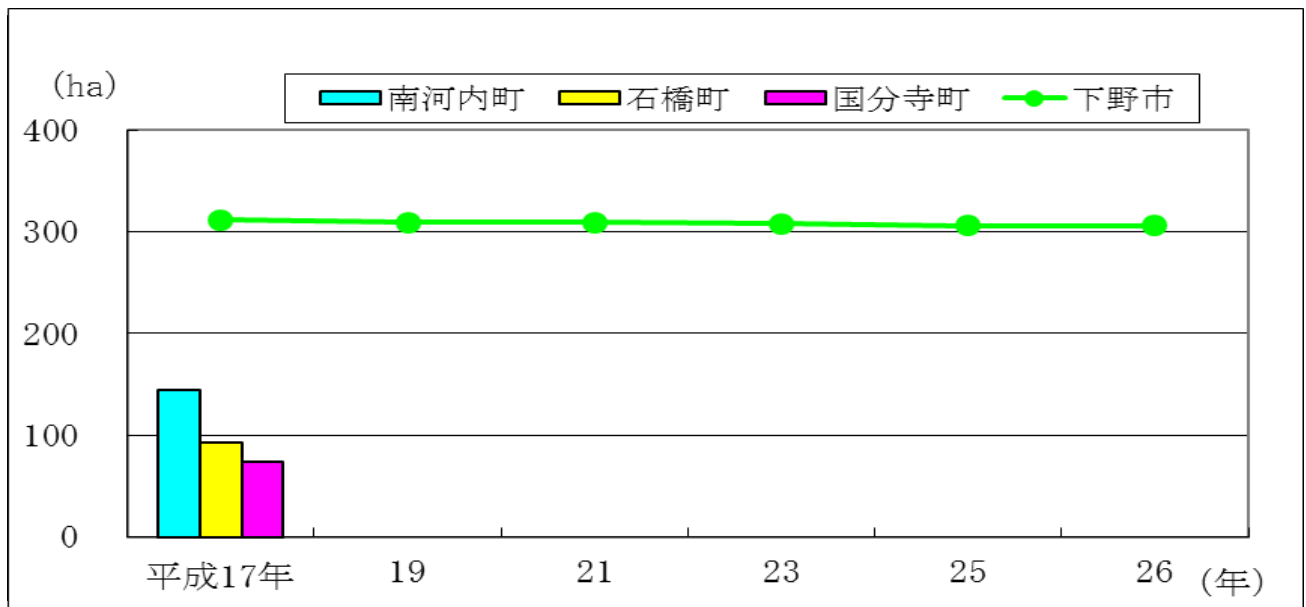
(1) 林野面積

下野市の林野面積の推移をみると、平成17年(312ha)から平成26年(306ha)までに6ha減少している。

林野面積の推移

単位：ha

旧町別	平成17年	19	21	23	25	26
南河内町	145	-	-	-	-	-
石橋町	93	-	-	-	-	-
国分寺町	74	-	-	-	-	-
下野市	312	309	309	308	306	306



資料：栃木県環境森林部（各年3月31日現在）

参 考

平成26年の林野面積

単位：ha

宇都宮市	8,179	日光市	125,324	那須塩原市	38,572
足利市	7,949	小山市	564	さくら市	2,525
栃木市	8,391	真岡市	1,442	那須烏山市	8,132
佐野市	21,825	大田原市	15,313		
鹿沼市	33,671	矢板市	9,772		

3月31日現在

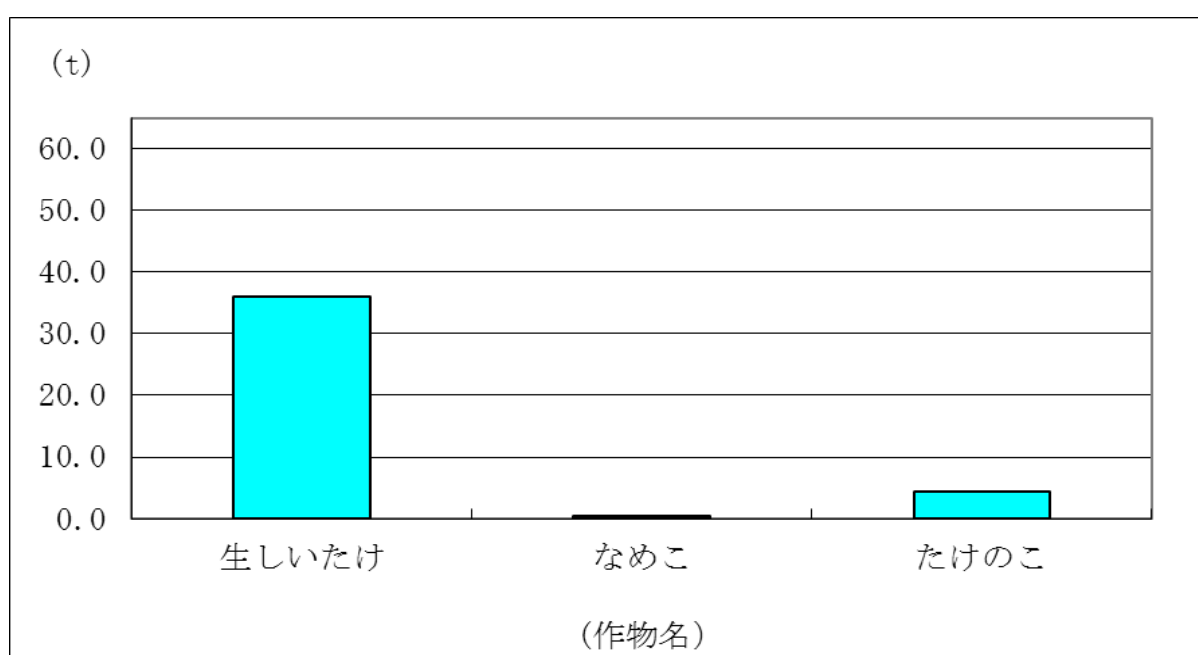
(2) 平成25年特用林産物生産量

下野市の平成25年の特用林産物生産量をみると、生しいたけが36tで1番多い。また、2番目にたけのこが5t、3番目になめこが0.4tとなっている。

平成25年特用林産物生産量

単位：t

	生しいたけ	なめこ	たけのこ
下野市	36.0	0.4	4.5



資料：栃木県環境森林部

解説

特用林産物とは、森林原野において産出されてきた産物で、通常林産物と称するもののうち、一般用材を除く品目の総称と定義されています。つまり、森林から生産されるもののうち、建築用材以外のものすべてを特用林産物といいます。かつては、林野副産物とか特殊林産物などとも呼ばれていましたが、現在では特用林産物に統一されています。

特用林産物は、きのこ類をはじめ、くりなどの樹実類、たらの芽、わさび等の山菜類、そのほか木炭類、竹類など多岐にわたっています。